



学校だより 12月号

横浜市立菊名小学校 令和5年11月30日

憧れを実現する縦割り活動

校長 松瀬 歩

延期になっていたふれあい遠足がすべての学年で実施することができました。菊名小学校では、他学年との交流、縦割り班活動をととても大切にしています。

私は、2年生と4年生のふれあい遠足に引率しましたが、様々な場面で縦割り活動のよさを見ることができました。

- 片道1時間の道のりを4年生が2年生をリードしながら安全に気を付けて歩いていました。
- 4年生と2年生が笑顔で楽しそうに一緒にお弁当を食べていました。
- 4年生が2年生の体力に合わせて遊びを考え、実践していました。
- 教室の中で目立たない4年生も、縦割り活動では重要な役割を任せられ、その責任を果たしていました。
- ◎2年生は4年生の優しさや頼もしさにふれ、2年後の自分のあるべき姿を学んでいました。

このように、ふれあい遠足の様子を振り返ってみると、上級生である4年生にとって学びがたくさんある場と思われがちですが、2年生にとっても重要な学びがあります。それは、「4年生の優しさ頼もしさに触れ、自分も4年生になった時に、今の4年生のようになりたい。」と憧れの気持ちをもつことです。スポーツ選手やアイドルに憧れてもそれを実現できる人はほんの一部の人だけですが、優しく頼もしい上級生への憧れは誰もが実現できるものです。そして、上級生になって実現できた自分を振り返り、自己肯定感と自己有用感が高まるとともに、より優しくより頼もしくなれるように頑張るエネルギーが湧いてくるのです。

一昔前は、ガキ大将(腕っぶしだけでなく、マインドも兼ね備えたリーダー)と呼ばれている上級生が下級生と一緒に遊び、その中で下級生や弱者への思いやりを含めた社会性を自然に学んでいました。ところが、現代では放課後や休日に子どもが自由に遊べる時間や場所がなくなってきているため、学校での縦割り活動の重要性はますます高まっています。

令和5年度 全国学力・学習状況調査の結果報告

【調査の対象】 小学校第6学年

【学習・生活意識調査結果概要】

国語・算数科の学習においては、全国の平均を上回り、基礎・基本の学力が定着しています。

生活意識においては、自己有用感や規範意識を高めるために集団生活や社会生活の中で、きまりやルール、約束などに基づいて、主体的に判断し行動しようとする意識が高まるよう互いを認め合う場の設定や成功体験を増やしていけるようにします。

また、行事や道徳等を通して自尊感情や規範意識を高め、希望をもって、自分の目指した目標に近づこうとする心を高めるようにしていきます。

